



TITLE:

京大広報 No. 746

AUTHOR(S):

京都大学総務部広報課

CITATION:

京都大学総務部広報課. 京大広報 No. 746. 京大広報 2019, 746: 5297-5322

ISSUE DATE:

2019-11-30

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/245043>

RIGHT:

京大 広報

KYOTO UNIVERSITY

2019.11
No. 746



※ P5305 参照



※ P5318 参照



※ P5302 参照

目次

[大学の動き]

- 理事が発令される 5298
- 部局長の再任 5298
- 名誉教授の称号を授与 5298
- 京都大学春秋講義(令和元年度秋季講義)を開催 5298
- 第75回京都大学未来フォーラムを開催 5299
- 欧州拠点5周年記念式典を開催 5300
- 第7回 HeKKSaGOn(日独6大学ネットワーク)
学長会議に山極壽一 総長はじめ本学教職員およ
び学生が参加 5302
- 「財務報告書 Financial Report 2019」を発行 5304
- 株式会社丸和運輸機関による京都大学ラグビー
フィールド整備に関する寄附 5305
- 大学院学位授与式を挙行 5306

[部局の動き]

- 防災研究所公開講座「災害を事前に管理する
ー被災してもしなやかに生きるための備えー」
を開催 5311
- スウェーデン高等教育・研究大臣が宇治キャンパス
を訪問 5311

- 高等研究院 iCeMS が、UCLA との On-site
Laboratory「量子ナノ医療研究センター」開設
セレモニーを開催 5312

[寸言]

- したたかな環境適応を！ 佐々木 拓郎 5315

[随想]

- 災害で失われる人命の価値はゼロか 5316
名誉教授 岡崎 健二

[洛書]

- What's "What's new?" 袴田 昌高 5317

[話題]

- 法規業務に関する講習会を開催 5318
- 令和元年度総長杯(ディスクドッジ大会)を開催 5318
- 体育会居合道部がICOM京都大会の展示会開会
式で演武を披露 5319

[訃報]

- 坂野 登 名誉教授 5320
- 大石 純 名誉教授 5321
- 寺島 泰 名誉教授 5322



京都大学



大学の
動き

理事が発令される

11月1日付けで理事が任命されました。任期は令和2年9月30日まで。



総務・労務・人事担当
平井 明成（新任）

[目次に戻る ↗](#)

部局長の再任

（再任）

野生動物研究センター長

村山美穂 霊長類野生動物学系（野生動物研究センター）教授が、野生動物研究センター長に再任されました。任期は、令和元年10月16日から令和3年10月15日まで。

[目次に戻る ↗](#)

名誉教授の称号を授与

10月1日付けで次の2名に京都大学名誉教授の称号が授与されました。

| 氏 名 | 推 薦 部 局 |
|---------|-----------|
| 田 畑 修 | 工学研究科 |
| 石 川 尚 人 | 人間・環境学研究科 |

（総務部（人事課））

[目次に戻る ↗](#)

京都大学春秋講義（令和元年度秋季講義）を開催

京都大学春秋講義は、京都大学における学術研究活動の中で培われてきた知的資源について、広く学内外の人々と共有を図るため、1988年秋から開講している公開講座です。

今回は、メインテーマを「平成を振り返って－自然災害への心構え」として、2日間にわたり、合わせて4講義を行いました。1日目の9月8日（日）は、矢守克也 防災研究所教授から「平成の災害に学ぶ災害への備え」、関口春子 防災研究所准教授から「将来の地震の揺れを予測する」と題した講義がありました。2日目の9月29日（日）は、清野純史 工学研究科教授から「平

大学の
動き

成の地震災害を振り返る－何を学び何を伝えるのか」, 西嶋一欽 防災研究所准教授から「知っているようで知らない強風災害－強大化する台風に備える」と題した講義がありました。2日間で667名の入場者があり, 自然災害を身近な問題として捉え, その対策への関心の高さがうかがえました。

参加者からは, 「改めて災害からいかに身を守る行動をどう取るか考える機会となった」, 「次善の策も考えておくべき事の大切さを理解した」, 「地震波については初めてまとめて話が聞けてよかった。地盤構造と被害の関係もわかった」, 「正しく知って正しく恐れる。その説得力に今何ができるか, 何を考えてあるか, 反省させられました」, 「減災に向けてもっとこういう講義を学童, 高齢者, 社会的弱者にも周知する必要があると思った」など多数の感想が寄せられました。



会場の様子

(総務部(渉外課))

[目次に戻る](#)

第75回京都大学未来フォーラムを開催

今回の京都大学未来フォーラムは, 農学部卒業生で農林中央金庫顧問の河野良雄氏を迎え, 10月18日(金)に百周年時計台記念館において開催しました。

「農林水産業と食と地域の暮らしを支えるリーディング・バンクを目指して－農林中央金庫初のはえ抜き理事長の46年間の歩み」と題した講演の中で河野氏は, まず世間一般にあまり馴染みのない農林中央金庫を含むJAグループと金庫の歴史や役割について説明し, その後, 自身の学生時代からサラリーマン人生を「職員時代・管理職時代・役員時代」に分け, そのときどきのニュースと併せ語りました。そして, 最後に, 46年間のサラリーマン人生を終えて感じたこととして, 「賢い者・強い者が生き残るのではなく, 変化するものが生き残る(ダーウィンの法則)は組織にも当てはまる」, 「変わることに対する抵抗は危機感の差」であり, そこには5つの壁がある, 「年齢別に最も必要とする能力は変わる」, 「成功するための唯一の方法は, 成功するま



講演する河野氏



会場の様子

大学
の
動き

でやり続けること」や、リーダーの条件、幸福の条件などを述べました。

参加者からは、「ベールにつつまれている感の農林中央金庫の実態が良く理解出来ました。国の根幹の第一次産業がより強く整備されることが優先課題と思います」、「本学の先輩が活躍しているのを知り、自分の将来の助けになった。大人数で安心感のある組織も内に欠陥をかかえていて、当事者自身が新たな改革をするしかないのだと勉強になった」、「リーダーの条件として、先見性を持ち風を読むことは、これから自分の生活の中でも取り入れたいと思います」などの感想が寄せられました。

(総務部(渉外課))

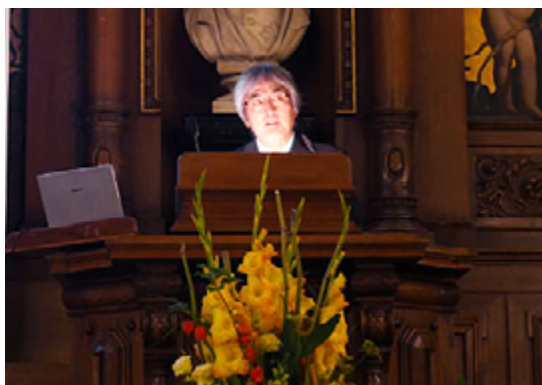
[目次に戻る ↗](#)

欧州拠点 5 周年記念式典を開催

9月11日(水)にドイツ・ハイデルベルクにて、欧州拠点設置5周年記念式典を開催しました。

全学海外拠点の一つとして2014年5月3日にハイデルベルク大学内に設置した欧州拠点は、学生や研究者の教育研究活動支援を軸に、欧州の各大学・研究機関との情報交換や、イベント企画・出展等を通じて、欧州域内で着実にネットワーク構築を行ってきました。本式典では、そうした拠点の活動を支援している大学、研究機関等より計50名を迎え、日頃の感謝を伝えるとともに、一層の関係発展に期待が寄せられました。

式典はセレモニーとレセプションの二部構成とし、第一部のセレモニーはハイデルベルク大学の趣のある講堂 Alte Aulaにおいて山極壽一 総長による挨拶で開会しました。山極総長が京都と欧州を繋ぐ「窓」としての全学海外拠点の役割について触れたことを受け、続く Prof. Dr.Dr.h.c.Bernhard Eitel*1 ハイデルベルク大学長も祝辞で「窓」に言及し、欧州拠点の持つ役割の重要性を述べました。さらに、本学同窓生の森 雅彦 DMG 森精機株式会社代表取



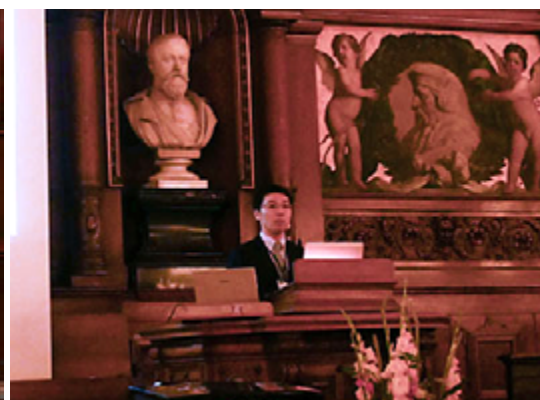
山極総長による開会挨拶



Eitel 学長による祝辞



森社長による祝辞



清水教授による基調講演

大学の
動き

締役社長（鼎会*2）からは、欧州に大きな基盤を持つ産業界の視点による祝辞があり、本学同窓生の清水健太郎 チューリッヒ大学教授（欧州洛友会）による基調講演では、自身の経験や研究内容を踏まえた研究の国際化についてお話がありました。加えて、欧州拠点スタッフから、欧州拠点の5年間の歩みを紹介するとともに、それらの実績を作るためのface-to-faceの関係づくりが拠点の存在意義の一つであることを述べました。

続く第二部のレセプションは、ハイデルベルク大学の貴賓室 Bel Etage に場所を移して行われました。稲葉カヨ 理事・副学長の乾杯挨拶に始まり、本学の協定校であるボルドー大学の Prof. Dr. Laurent Servant 副学長からの心温まる祝辞に続いて、ハイデルベルク大学で留学中の本学学生からも経験談を交えた挨拶がありました。

終盤では、本学学生団体の京大工房が本式典のために企画・作成した記念品（五重塔を模した栞, Kyoto Origami Bookmark）の製作過程や、学生からのメッセージを紹介し、最後



式典参加者の集合写真



稲葉理事・副学長による乾杯挨拶



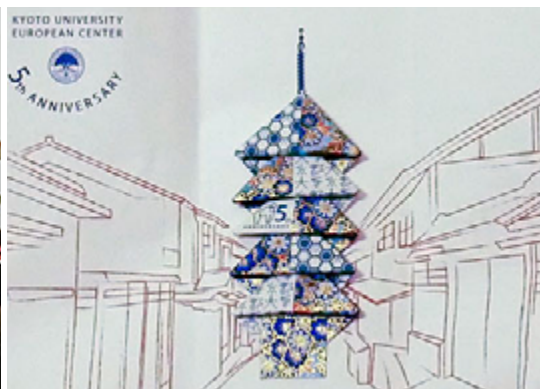
Servant 副学長による祝辞



本学学生による挨拶



レセプションの様子



記念品「Kyoto Origami Bookmark」

大学の
動き

は河野泰之 副学長・拠点所長による謝辞をもって閉会しました。

本学は、欧州拠点を通じて培ってきたネットワークを強化、発展させながら、世界に向けた「窓」をより大きく開き、国際化を推進していきます。

*1 (参考)「Prof.Dr.Dr.h.c.」はハイデルベルク大学HP、交流協定でも記載されている正式な表記

*2 鼎会は京大卒業生財界トップによる総長支援団体です。

(企画・情報部(国際交流課))

[目次に戻る ↗](#)

第7回 HeKKSaGOn (日独6大学ネットワーク) 学長会議に 山極壽一 総長はじめ本学教職員および学生が参加

第7回 HeKKSaGOn (日独6大学ネットワーク) 学長会議が、ハイデルベルク大学で9月12日(木)～13日(金)の2日間開催され、本学からは山極総長、稲葉カヨ 理事・副学長をはじめ、教職員36名およびドイツに留学中の学生4名が参加しました。今回のテーマは、「The Future of the HeKKSaGOn Alliance: Priorities, Challenges, Chances」で、日独から約200名の参加者が集まりました。HeKKSaGOn学長会議は加盟校の持ちまわりで開催されており、第二期の初回となる今回の学長会議では、2029年までの第二期に取り組む重点分野や今後の学長会議の在り方が話し合われました。

初日はProf.Dr.Dr.h.c. Bernhard Eitel ハイデルベルク大学長からの歓迎の挨拶で開幕し、木村徹也 在ミュンヘン総領事から開会のお言葉の後、参加者は二手に分かれてそれぞれハイデルベルク大学のキャンパスを見学しました。

午後からは6大学の学長・副学長らによる Closed Presidents' Meetingと各研究ワーキンググループによる会議、そして6大学の学生による学生ワークショップが並行して開催されました。

1日目の Closed Presidents' Meetingでは、学長・副学長が各大学の最新の取り組みについて発表し、将来のHeKKSaGOn加盟大学間での協力の機会について検討しました。本学からは山極総長が、主に指定国立大学構想に基づく本学の取り組みを紹介し、他大学との交流の可能性も示唆しました。



発表する山極総長



Closed Presidents' Meetingの様子



Joint Statement を掲げる学長たち

大学の
動き

2日目の Closed Presidents' Meeting では、HeKKSaGOn 第二期の戦略について学長・副学長の間で熱い議論が交わされ、その結果は Joint Statement としてまとめられました。

午後に開催された全体会では学生ワークショップ、各研究ワーキング、学長からそれぞれの会議内容について発表があり、Joint Statement の締結式および記念品の交換が執り行われました。

HeKKSaGOn では、第二期に重点的に取り組む「Priority Area」として、① Transcultural studies and the transformation of cultural heritage, ② Data science, digitalization, and artificial intelligence, ③ Health, well-being, safe and resilient societies, ④ Engineering molecular systems and bioimaging の4つを設定し、これらに関連する研究を行うワーキンググループの公募・助成を行うこととなりました。

次回の学長会議は、日独交流160周年となる2021年の秋に、「Health, well-being, safe and resilient societies」をテーマとして東北大学で開催される予定です。

■ HeKKSaGOn (ヘキサゴン) とは

2010年、日本側から京都大学、東北大学、大阪大学、ドイツ側からハイデルベルク大学、ゲッティンゲン大学、カールスルーエ工科大学の計6大学が、両国の科学と知識の進歩向上を目指す学術交流を目的として設立したもので、6大学が所在する都市 (Heidelberg, Kyoto, Karlsruhe, Sendai, Göttingen, Osaka) の頭文字等を取って HeKKSaGOn と命名されました。主な活動として、日独6大学学長会議、研究セッション、博士課程学生サマースクール等を開催しています。本学は日本側幹事校として、ドイツ側幹事校ハイデルベルク大学との調整役を務めています。

■ 関連リンク

HeKKSaGOn

<http://www.hekksagon.net/>

Kyoto University: Global Engagement「HeKKSaGOn」

<http://www.oc.kyoto-u.ac.jp/network/hekksagon/>



学長会議出席者集合写真

(企画・情報部(国際交流課))

[目次に戻る ↗](#)

大学の
動き

「財務報告書 Financial Report 2019」を発行

2019年10月、本学は、財務・非財務情報を統合的に報告する「財務報告書 Financial Report 2019」を発行・公開しました。

本学では2017年度より、国際統合報告評議会(IIRC)^{*}が提唱する国際統合報告フレームワークを参考にし、決算情報のみならず、本学のガバナンス体制の紹介やガバナンスの強化・充実に向けた取り組み、持続的な価値創造に向けた取り組みを統合的に紹介するなど、財務報告書 Financial Reportの進化に取り組んできました。

今回で15回目の発行となる「財務報告書 Financial Report 2019」の編集にあたっては、



①本学を取り巻く環境や運営方針を整理して幅広い読者の皆さまに発信すること、②支援者の皆さまに本学の特色ある活動を深く理解していただくこと、③支援者の皆さまに中長期にわたる持続的な価値の向上を目指す本学の可能性を理解していただくこと、の3点を特に重視し、「京都大学が果たすべき役割」や「経営改革のビジョン」などを分かりやすく発信することを心がけました。

さらに、従来の財務報告書 Financial Reportの編集に対する読者の皆さまからのフィード



財務報告書（左）と
京都大学概要（右）

大学
の
動き

バックを取り入れた改善にも取り組みました。代表的な取り組みの一つが、ダイジェスト版と英語版の発行です。本学の活動や財務状況の要点を簡潔に記した冊子をご要望する声を反映するとともに、より多くの支援者の皆さまにお届けできるよう、英語版を公開しました。また、本学の基本データを取りまとめた冊子である「京都大学概要」との有機的連携を図るため、表紙のデザインに統一性を持たせることとしました。

本学は、財務報告書 Financial Report を通じて、支援者の皆さまに、本学の業務運営の姿勢や取り組みに対する理解を深めていただくとともに、持続的な価値の向上に向けた対話につなげていきたいと考えています。そのためにも、支援者の目線に立つことを念頭に置きつつ、引き続き内容の充実に努めていきます。

※ 国際統合報告評議会 (IIRC)

国際的な企業報告フレームワークの開発をめざして、規制当局・投資家・民間企業・基準設定機関・会計士団体・NGO 等によって設立された民間団体。

(財務部 (監理課))

[目次に戻る ↗](#)

株式会社丸和運輸機関による京都大学ラグビーフィールド整備に関する寄附

株式会社丸和運輸機関と本学は、創立125周年記念事業の一環として、宇治グラウンドにラグビーフィールドを整備することを決定し、10月2日(水)、天然芝・人工芝等総額約4億円規模の寄附に関する覚書に調印し、記者会見を行いました。

本学体育会ラグビー部などが使用する京都大学宇治グラウンド(約2.2ha)に、国際試合にも適合した品質を持つ天然芝や人工芝などを敷設することで、学生が自主的、自律的に行う課外活動環境の整備充実を図ることが可能となります。

国立大学法人への寄附は現金の納付によるものが一般的ですが、整備規模や課外活動への



記者会見の様子



完成予想図

影響、使用開始の時期等を総合的に勘案し、今回は整備・引き渡しを3期に分けた物納による形をとり、2021年7月までに順次引き渡しが行われる予定です。

また、本学はこの寄附行為に対する謝意の証として、当該グラウンドを「京都大学丸和運輸機関ラグビーフィールド」と名付けることとしています。

ラグビーフィールド完成後は、創立125周年記念事業として英

大学の
動き

国の大学と本学ラグビー部との交流試合も予定しています。

記者会見において山極壽一 総長は、丸和運輸機関のラグビー競技に対する熱い想いと、本学の創立125周年記念における未来に向けた想いが重なり合った結果として、今回の寄附に結び付いたとコメントしました。

(教育推進・学生支援部(厚生課))

[目次に戻る ↗](#)

大学院学位授与式を挙行

9月24日(火)、百周年時計台記念館百周年記念ホールにおいて、山極壽一 総長、理事・副学長をはじめ、各研究科長、学館長、学舎長、教育部長、博士課程教育リーディングプログラムコーディネーター出席のもと、大学院学位授与式を挙行しました。

今年度より、3月と同様に修士等学位授与式を博士学位授与式と統合一本化し「大学院学位授与式」として実施することとなりました。

今回の大学院学位授与式の対象は、令和元年5月23日付け授与の課程博士35名、論文博士6名の計41名、同年7月23日付け授与の課程博士44名、論文博士10名の計54名、同年9月24日付け授与の修士課程108名、専門職学位課程9名、課程博士84名、論文博士10名の計211名、合計306名です。

また、リーディング大学院プログラムを4名の受講生が修了しました。

山極総長から、代表者に対し学位記が手渡された後、総長の式辞をもって終了しました。



学位記を手渡す山極総長



式典の様子

大学の
動き

各分野別内訳は次のとおりです。

修士・専門職学位

令和元年9月24日付け

| 学位名 | 学位授与者数 | | | 学位授与者数 (左記のうち留学生数) | | | 累計 |
|---------------|------------|----|-----|-----------------------|----|----|--------|
| | 2019 年 9 月 | | | 2019 年 9 月 | | | |
| | 男子 | 女子 | 計 | 男子 | 女子 | 計 | |
| 修士（文学） | 1 | 4 | 5 | 1 | 3 | 4 | 5,187 |
| 修士（教育学） | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1,547 |
| 修士（法学） | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1,516 |
| 修士（経済学） | 3 | 9 | 12 | 2 | 8 | 10 | 1,910 |
| 修士（理学） | 12 | 3 | 15 | 9 | 3 | 12 | 11,243 |
| 修士（医科学） | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 369 |
| 修士（社会健康医学） | － | － | － | － | － | － | 66 |
| 修士（人間健康科学） | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 563 |
| 修士（薬学） | － | － | － | － | － | － | 2,299 |
| 修士（薬科学） | 2 | 0 | 2 | 2 | 0 | 2 | 515 |
| 修士（工学） | 4 | 0 | 4 | 3 | 0 | 3 | 33,221 |
| 修士（農学） | 12 | 9 | 21 | 10 | 7 | 17 | 10,709 |
| 修士（人間・環境学） | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3,481 |
| 修士（エネルギー科学） | 12 | 8 | 20 | 10 | 8 | 18 | 2,655 |
| 修士（地域研究） | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 396 |
| 修士（情報学） | 15 | 2 | 17 | 9 | 2 | 11 | 3,638 |
| 修士（生命科学） | 5 | 2 | 7 | 5 | 2 | 7 | 1,470 |
| 修士（総合学術） | 0 | 2 | 2 | 0 | 1 | 1 | 28 |
| 修士（地球環境学） | 1 | 1 | 2 | 1 | 1 | 2 | 615 |
| 社会健康医学修士（専門職） | 3 | 4 | 7 | 2 | 4 | 6 | 454 |
| 公共政策修士（専門職） | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 493 |
| 経営学修士（専門職） | 2 | 0 | 2 | 2 | 0 | 2 | 914 |
| 法務博士（専門職） | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2,258 |
| 総 計 | 73 | 44 | 117 | 56 | 39 | 95 | 85,547 |

※修士（地域研究）および修士（総合学術）は、一貫制博士課程の修士修了相当授与者のみ

博士

令和元年5月23日付け、7月23日付け、9月24日付け

■課程博士

| 学位名 | 学位授与者数（下段は留学生の内数） | | | | | | | | | 総計 | 累計 |
|---------|-------------------|----|----|---------|----|----|---------|----|----|----|-------|
| | 2019年5月 | | | 2019年7月 | | | 2019年9月 | | | | |
| | 男子 | 女子 | 中計 | 男子 | 女子 | 中計 | 男子 | 女子 | 中計 | | |
| 博士（文学） | 1 | 0 | 1 | 2 | 4 | 6 | 0 | 1 | 1 | 8 | 1,111 |
| | 1 | 0 | 1 | 2 | 1 | 3 | 0 | 1 | 1 | 5 | |
| 博士（教育学） | 0 | 0 | 0 | 1 | 2 | 3 | 0 | 0 | 0 | 3 | 240 |
| | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 2 | 0 | 0 | 0 | 2 | |

大学の
動き

| 学位名 | 学位授与者数（下段は留学生の内数） | | | | | | | | | 総計 | 累計 |
|------------------------|-------------------|----|----|---------|----|----|---------|----|----|-----|--------|
| | 2019年5月 | | | 2019年7月 | | | 2019年9月 | | | | |
| | 男子 | 女子 | 中計 | 男子 | 女子 | 中計 | 男子 | 女子 | 中計 | | |
| 博士（法学） | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | 1 | 362 |
| | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | 1 | |
| 博士（経済学） | 0 | 1 | 1 | 2 | 0 | 2 | 1 | 1 | 2 | 5 | 683 |
| | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 2 | 3 | |
| 博士（理学） | 7 | 0 | 7 | 0 | 0 | 0 | 8 | 0 | 8 | 15 | 5,611 |
| | 3 | 0 | 3 | 0 | 0 | 0 | 3 | 0 | 3 | 6 | |
| 博士（医学） | 6 | 3 | 9 | 11 | 5 | 16 | 6 | 2 | 8 | 33 | 10,269 |
| | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | |
| 博士（医科学） | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 2 | 105 |
| | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| 博士（社会健康医学） | 1 | 0 | 1 | 0 | 2 | 2 | 1 | 1 | 2 | 5 | 97 |
| | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | |
| 博士（人間健康科学） | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 72 |
| | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| 博士（薬学） | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1,146 |
| | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| 博士（薬科学） | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 2 | 2 | 112 |
| | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 1 | |
| 博士（工学） | 3 | 1 | 4 | 5 | 1 | 6 | 20 | 6 | 26 | 36 | 6,033 |
| | 2 | 1 | 3 | 2 | 0 | 2 | 9 | 6 | 15 | 20 | |
| 博士（農学） | 6 | 1 | 7 | 0 | 1 | 1 | 6 | 3 | 9 | 17 | 3,014 |
| | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 5 | 3 | 8 | 9 | |
| 博士（人間・環境学） | 0 | 0 | 0 | 1 | 3 | 4 | 3 | 0 | 3 | 7 | 913 |
| | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 2 | 1 | 0 | 1 | 3 | |
| 博士（エネルギー科学） | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 5 | 7 | 7 | 399 |
| | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 3 | 4 | 4 | |
| 博士（地域研究） | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 2 | 3 | 255 |
| | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 2 | 2 | |
| 博士（情報学） | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 3 | 3 | 6 | 7 | 709 |
| | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 2 | 3 | |
| 博士（総合学術）※ ¹ | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 |
| | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| 博士（生命科学） | 1 | 1 | 2 | 0 | 1 | 1 | 1 | 0 | 1 | 4 | 419 |
| | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | |
| 博士（総合学術）※ ² | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 8 |
| | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| 博士（地球環境学） | 1 | 0 | 1 | 1 | 0 | 1 | 2 | 4 | 6 | 8 | 192 |
| | 1 | 0 | 1 | 1 | 0 | 1 | 1 | 2 | 3 | 5 | |
| 博士（経営科学） | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 5 |
| | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| 総 計 | 28 | 7 | 35 | 25 | 19 | 44 | 54 | 30 | 84 | 163 | 31,757 |
| | 9 | 3 | 12 | 5 | 7 | 12 | 23 | 20 | 43 | 67 | |

※ 1：情報学研究科修了 ※ 2：総合生存学館修了

大学の
動き

■論文博士

| 学位名 | 学位授与者数（下段は留学生の内数） | | | | | | | | | 総計 | 累計 |
|-------------|-------------------|----|----|---------|----|----|---------|----|----|----|--------|
| | 2019年5月 | | | 2019年7月 | | | 2019年9月 | | | | |
| | 男子 | 女子 | 中計 | 男子 | 女子 | 中計 | 男子 | 女子 | 中計 | | |
| 博士（文学） | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | 1 | 646 |
| | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| 博士（教育学） | 0 | 1 | 1 | 2 | 0 | 2 | 0 | 2 | 2 | 5 | 166 |
| | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| 博士（法学） | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 200 |
| | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| 博士（経済学） | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | 1 | 401 |
| | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| 博士（理学） | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1,562 |
| | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| 博士（医学） | 3 | 0 | 3 | 5 | 1 | 6 | 1 | 0 | 1 | 10 | 2,185 |
| | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| 博士（医科学） | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 4 |
| | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| 博士（社会健康医学） | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 12 |
| | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| 博士（人間健康科学） | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 5 |
| | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| 博士（薬学） | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 773 |
| | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| 博士（薬科学） | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 |
| | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| 博士（工学） | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | 1 | 1 | 2 | 3 | 4,182 |
| | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | 1 | |
| 博士（農学） | 2 | 0 | 2 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 3 | 2,876 |
| | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| 博士（人間・環境学） | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | 1 | 51 |
| | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| 博士（エネルギー科学） | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 63 |
| | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| 博士（地域研究） | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 27 |
| | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| 博士（情報学） | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 95 |
| | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| 博士（生命科学） | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | 1 | 19 |
| | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | 1 | |
| 博士（地球環境学） | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | 1 | 13 |
| | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| 総 計 | 5 | 1 | 6 | 9 | 1 | 10 | 7 | 3 | 10 | 26 | 13,282 |
| | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 2 | 2 | |

大学の
動き

■博士課程教育リーディングプログラム

※下段は留学生数の内数

| プログラム名 | 2019年9月 | | | 総計 | 累計 |
|--------------------------------|---------|----|----|----|----|
| | 男子 | 女子 | 中計 | | |
| 京都大学大学院思修館 | 0 | 0 | 0 | 0 | 10 |
| グローバル生存学大学院連携プログラム | 0 | 0 | 0 | 0 | 30 |
| 充実した健康長寿社会を築く総合医療開発リーダー育成プログラム | 0 | 0 | 0 | 0 | 8 |
| デザイン学大学院連携プログラム | 2 | 1 | 3 | 3 | 17 |
| 霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院 | 1 | 0 | 1 | 1 | 6 |
| | 1 | 0 | 1 | 1 | |
| 総 計 | 3 | 1 | 4 | 4 | 71 |
| | 2 | 1 | 3 | 3 | |



学生の様子

(教育推進・学生支援部(教務企画課))

[目次に戻る ↗](#)



防災研究所公開講座「災害を事前に管理するー被災してもしなやかに生きるための備えー」を開催

9月24日(火)、京都大学防災研究所公開講座(第30回)をキャンパスプラザ京都で開催しました。

平成の30年間の災害を振り返りながら、被災してもしなやかに生きるための備えとして、自助だけではなく共助をも考慮して災害の事前・時中・事後における対応を予め想定することや、被災する頻度とその影響を見据えて災害を事前に管理することの重要性について、地盤(斜面)災害、地震による建物の災害、水害およびヒトの防災行動についての講演の後、会場からの質問を受けて総合討論を行いました。

本講座は、防災研究所の研究者から防災の勘所を分かりやすく説明するだけでなく、参加者の質問に答えることにより防災に関する知識を説明するとともに、防災にある程度興味を持っている参加者にどのような知見が伝わっていないのかを知るという点でも大きな意義がありました。

日頃から防災行政に携わる関係機関をはじめ、161名と多数の参加がありました。今後は、京都はもちろん他地域での開催についても企画していく予定です。

●録画映像および講演当日の配布資料をご覧になれます。

【関連リンク】

京都大学防災研究所 (YouTube)

<https://www.youtube.com/channel/UCQ22ABWTJkxolMXLAnLKMLQ>



真剣に聞き入る聴講者



総合討論の様子

(防災研究所)

[目次に戻る](#)

スウェーデン高等教育・研究大臣が宇治キャンパスを訪問

マティルダ・エーンクランス スウェーデン高等教育・研究担当大臣一行が10月7日(月)に本学宇治キャンパスを訪問しました。同大臣はかねてより気候・環境・持続可能な成長といったテーマに大きな関心を抱いており、京都市で開催されたSTSフォーラム(科学技術と人類の未来に関する国際フォーラム)出席のための来日に合わせて、宇治キャンパス訪問が実現しました。

最初に渡辺隆司 生存圏研究所長が歓迎の挨拶を行った後、矢野浩之 生存圏研究所教授が、植物由来の材料であるセルロースナノファイバー(CNF)を用いた新素材に関する研究の説

部局の
動き

明を行い、アナ・マリア・クルーズ 防災研究所教授が、都市沿岸部での大規模災害に関するリスクマネジメント研究の説明を行いました。

一行は次に、繊維板試験実験棟に向かい、セルロースナノファイバー（CNF）に関する研究・実験の様子を視察しました。

その後、キャンパス内の中庭に移動し、ランチミーティングを行いました。ランチミーティングには本学の女性研究者7名も参加し、エーンクランス大臣のもう一つの目的であった女性研究者との意見交換が、和やかな雰囲気の中で行われました。



クルーズ教授によるプレゼンテーション



繊維板試験実験棟の設備を説明する矢野教授



エーンクランス大臣から記念品の贈呈を受ける
渡辺所長



ランチミーティング参加者による記念撮影

(宇治地区事務部)

[目次に戻る](#)

高等研究院 iCeMS が, UCLA との On-site Laboratory「量子ナノ医療研究センター」開設セレモニーを開催

高等研究院 物質-細胞統合システム拠点 (iCeMS=アイセムス) は、カリフォルニア大学ロサンゼルス校 (UCLA) と本学の On-site Laboratory「量子ナノ医療研究センター」を iCeMS 内に開設し、10月5日(土) にジーン・ブロック UCLA学長 (Chancellor Gene D. Block), ディノ・ディ・カルロ 教授 (Prof. Dino Di Carlo) を迎えて開設セレモニーを行いました。

iCeMSとUCLAのカリフォルニアナノシステムズ研究所 (CNSI) は2010年に学術交流協定を締結、2018年にはUCLAにて京都大学-UCLA合同国際シンポジウム「物理学の進展と医学応用」を開催するなど、学際的交流を進めてきました。今回開設したこの量子ナノ医療研究センターは、本学の指定国立大学法人構想の取り組みの一環として、京都大学 On-site Laboratoryとして認定されています。同センターでは、物理と医学を融合し、「量子ナノ医療研

部局の
動き

究」という放射線とナノ材料を組み合わせた新学術分野の開拓と、その医療応用を目指した展開を目指しています。

セレモニーには、本学からは湊 長博 プロボスト 研究担当理事・副学長、河野泰之 国際戦略担当副学長・国際戦略本部長、森 重文 高等研究院院長、北川 進 高等研究院特別教授・iCeMS 拠点長をはじめ高等研究院iCeMSの研究者・職員を含め、50名が出席しました。同センターの責任者となる玉野井冬彦 特定教授 (UCLA教授) は、センター設置までの経緯や研究内容について紹介し、最後に「iCeMSが持つ研究力にUCLAの持つ応用のノウハウが加わることで、新たな放射線医療の開拓が期待できると楽しみにしており、設置に関わった多くの方々に感謝しています。」と述べました。



左から、挨拶をする湊プロボスト、ブロック学長、森研究院長



プレゼンテーションをする北川拠点長、玉野井教授

湊プロボストとブロック学長の記念品交換



会場の様子

レセプションでの研究談義



セレモニー後にはレセプションが行われ、UCLAとiCeMSの研究者が、今後の展望について意見交換を行いました。同センターが本学とUCLAの交流のハブとして機能し、両機関の共同研究を加速させていくことが期待されます。

【関連リンク】

米国にて京都大学－UCLA合同国際シンポジウム「物理学の進展と医学応用」を開催しました。(2018年11月15日～16日)

http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/international/events_news/department/koto-kenkyu-in/news/2018/181116_1.html

On-site Laboratoryを新たに6件認定しました。「量子ナノ医療研究センター」がUCLAと京都大学の On-site Laboratoryに認定されました。(2019年7月23日)

http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/about/events_news/office/kikaku-joho/kikaku/news/2019/190723_1.html

高等研究院 物質・細胞統合システム拠点 (iCeMS)

<https://www.icems.kyoto-u.ac.jp/ja/>



セレモニー参加者

(高等研究院)

[目次に戻る ↗](#)

寸言

したたかな環境適応を！

佐々木 拓郎



東京出身の私が京大に入学したのは、今から44年前の昭和50年、京都には中学と高校の修学旅行で来たくらいで、特に所縁があったわけではありません。親離れと同時に子離れをさせ

るというような生意気な青雲の志？と、また、反中央のような憧れがあったような気がします。当時は関東地区から京大に入学する学生は極めて少なく、ましてや東大を始めとする有名大学が多数ある東京出身ということで不思議がられたものですが、自然に環境適応することが出来ました。

住まいは、慈照寺（銀閣寺）の隣の隣、6畳一間の下宿で通った銭湯は銀閣寺湯でした。銀閣寺近隣ですと浄土寺と地名が付くところに下宿していた方々が多いと記憶していますが、私の住所は、正に銀閣寺町で大文字山への登り口というような場所でした。大文字山に登頂したのは体育の授業を含めて3～4回、銀閣寺参拝も2～3回、また社寺仏閣巡りも当時は殆ど興味が湧かず、大変惜しいことをしたと今になって後悔しています。

大学時代の最大の財産は、標準語以外の様々な日本語が飛び交うキャンパスとキャンパス外の学生生活。近畿地方、中部地方、西日本地方或いはそれ以外の各地から集まってきた俊才たちとの交流により、色々な刺激を受け、多くの学びの機会を得たということです。高校まで東京しか知らなかった私にとっては、様々な異なるカルチャー、多様な考え方を吸収できたわけですし、今風に言えばプッチダイバーシティの洗礼を受けたということでしょうか…。

卒業後は、金融機関に就職して、13年前から古戦場で有名な愛知県長久手市にある日東工業（東証1部の電気機器メーカー）という「B to B」企業に転じることになり、想定外のことでしたが6年前から社長の拝命を賜りまして、日々持続的に成長するには、どうすべきか等悩んでいる次第です。しっかりとしたビジネスモデルが確立していたとしても、現在が将来を保証しているわけではありません。国連加盟国が合意したSDGs「持続可能な開発のための2030」には17のゴールと169のターゲットが定められていますが、2030年を見据えて一企業としては何をなすべきか、どのように環境適応していくかが大きな課題となっています。環境適応のためには、机上の理論だけではなく、どれだけ多くの修羅場を乗り越えてきたか等が問われることになります。

前途洋洋たる京大生の皆様もいずれ巣立ちの時期が訪れることと存じますが、皆さんには、最後にダーウィンの名言を贈りたいと思います。

「最も強い者が生き残るのではなく、最も賢い者が生き延びるのでもない。唯一生き残ることが出来るのは、変化できる者である。」

我が国においては「少子高齢化」「生産人口の減少」等による閉塞感を感じている方が多いかもしれませんが、したたかにその環境を活かしたイノベーションを起こすポテンシャルを、京大生は十分備えているのではないかと思います。今後多くの様々な修羅場を経験して、皆さんが成長されることを心から応援しています。

（ささき たくろう、日東工業株式会社代表取締役社長 CEO、昭和54年法学部卒業）

[目次に戻る ↗](#)

随 想

災害で失われる人命の価値
はゼロか

名誉教授 岡崎 健二



「一人の死は悲劇だが、百万人の死は統計上の数字でしかない。」とは、スターリン（ソ連）の言葉である。科学技術が高度に発達したはずの現代でも、自然災害により多数の人命が失われている。スマトラ沖地震・津波（2004年）、ハイチ地震（2010年）の死者数は、20万人以上である。日本でも、2011年の東日本大震災により約22,000人（関連死を含む）が亡くなった。防災行政が人命を軽んじているわけではないが、結果的にスターリンが喝破したような状況にある。

東日本大震災による経済的損失は約17兆円とされており、大半が建物などの構造物の被害である。災害によって失われた人命の経済的価値は含まれていない。つまり、失われた人命価値は、実質的にゼロである。しかし、経済活動において労働力は生産に不可欠の要素であるから、労働力（人命）の損失が経済的損失に含まれないのは合理的でない。失われた人命の経済的価値を評価する方法がないわけではない（例えば、生きていれば得られたはずの「逸失利益」による方法など）が、自然災害の場合、評価しようという姿勢もない。

自然災害で失われる人命の価値を評価しないことによって生じる深刻な問題の一つに、個別の防災対策の効果を定量的に評価できないということがある。堤防などの構造物は、一定期間（例えば百年）に発生する規模の自然災害に耐える、という原則に基づいて整備が進められている。しかしこの原則では、千年に一回規模の自然災害で失われる甚大な人命損失を防ぐことはできない。すべての構造物は経年劣化を起こすので、百年に一回規模の災害でさえ壊れて、かえって多数の人命を奪う可能性もある。

政府予測などをベースにすると、今後30年間に、最悪の場合津波で数十万人、地震による住宅被害で数万人が死ぬ一方、洪水では数千人程度にとどまる。失われる人命価値を踏まえると、津波対策と地震対策（住宅対策）が喫緊かつ重要な課題であるが、予算配分には反映されていない。

また、地震保険という国の再保険制度がある。大地震により多数の住宅が倒壊した場合、国は最大で保険金の99.9%である11兆円超を支出する。安全性の低い住宅の所有者にとっては有り難い制度だが、地震保険に加入すると住宅の耐震安全性を向上させる動機を失うので、人命損失を減少させる予防的効果がほとんどない。この巨額の準備金は、住宅の事前の耐震安全性向上のためにこそ使われるべきである。住宅が安全になれば、地震による倒壊が減少し、保険金の支払額は劇的に減少するから、おつりがくる。

堤防や住宅などの構造物は、災害で壊れても再建できるが、失われた人命を回復するすべはない。災害の最大の悲劇は、家族を突然失うことである。人命が守られれば、災害後の復興は容易になる。人命価値の損失を減らす効果にもとづいて防災対策を見直そうとすると、防災対策の矛盾や困難に直面せざるを得ない。しかしそうしない限り、冒頭のスターリンの言葉は生き続ける。

（おかざき けんじ、平成30年退職、元大学院地球環境学堂教授、専門は建築、防災）

[目次に戻る ↗](#)

洛書

What's "What's new?"

袴田 昌高



金属のスポンジのようなものを研究している。特にそのスポンジの目の細かさが数ナノメートルというような非常に微細なものを「ナノポーラス金属」と呼び、これが意外と簡単に作れるので、面白がっていろいろな性質を調べている。

研究の一つの到着点として、投稿論文の受理・掲載がある。おそらく研究者のほとんどがそうであるように、筆者もこれまで数多くのリジェクト（不受理・掲載否）を食らっており、今後もそれは続くだろうが、ときどき、納得できない理由を挙げられる。ある日もリジェクトを食らったそのメールに、以下のような文言がついていた。

The authors must update the references as many of them are out of date!

参考文献として挙げているものが古いから新しいものにしろ、と、感嘆符付きで言うのだ。ある日も、と書いたが、ここ数年、筆者らの投稿する論文はけっこうな頻度でこの文言とともに突き返される。

「引用した参考文献の古さが論文原稿の瑕疵とされるのはおかしい。論旨を支える、あるいは論旨に反するものであってもよいが、論旨の参考となる文献を引用するのに、古いも新しいもないはずである。査読者あるいは査読内容が不適切であるので、編集委員には査読者の交代等を検討いただきたい。」

と主張した返信を添えて同じ雑誌に再度投稿すればいいのだが、そういう真っ向勝負をする気概が今の筆者にはないので、申し訳ないが、この場を借りて主張させていただく。参考文献に何が求められるべきかと言えば、新しさではなく、正しさ、に尽きるのではないか。いくら新しい文献であっても内容が間違っている、あるいは質が低いものであれば、それに基づく議論は全く価値のないものだろう。（正しさとは何か、の議論はここでは避ける。）

一方で、では、どこまで古い文献に遡上すべきか。例えば分子動力学計算は、ニュートンの運動方程式（いわゆる $F = ma$ ）を原子一個一個について数値的に解くシミュレーションだが、これを研究で使ったときに、運動方程式を記したニュートンの原著『プリンキピア』まで引用することはない。ニュートンが自身の発見について「巨人の肩に乗っていたから」と記したことはよく知られているが、『プリンキピア』も現代から見れば、そこに乗っていることを忘れるくらいに大きすぎる巨人だ。忘れるから、引用もしない。それを考えると、科学研究にとって真に価値のあることは、引用されなくなるような普遍的真理を見つけることなのだろうと思う。

冒頭で紹介した「ナノポーラス金属」も、注目されたのは今世紀に入ってからだが、歴史は古く、先コロンブス期中南米ですでに装飾品の製造技術として利用されていた。もちろん、ナノメートルオーダの細かい目のスポンジ構造は当時知られておらず、20世紀の電子顕微鏡の発展を待たねばならなかったが。そのタイムラグを思うとき、文脈やスケールが異なるにもかかわらず、上で述べた巨人の話がふっと頭をよぎる。ナノポーラス金属を電子顕微鏡で観察しているとき、自分は巨人の肩にきちんと乗れているのか、どんな顔をした巨人なのか、気になるのである。

（はかまだ まさたか、大学院エネルギー科学研究科准教授、専門は金属学）

[目次に戻る ↗](#)

話題

法規業務に関する講習会を開催

本学は、9月3日(火)～5日(木)、11日(水)、12日(木)に、規程の制定・改廃等といった法規業務遂行能力の向上を図ることを目的としたスタッフ・ディベロップメント(SD)の一環として、法規業務に関する講習会を開催しました。

主に事務職員を対象とした講習会を初級者、中級者向けにそれぞれ4回開催し、のべ300人以上の職員が参加しました。参加者らは、総務部総務課法規企画掛の職員による

本学の規程の体系や構成、法令用語のルール等についての講義を受講するとともに、演習を行いながら実践的な法規業務に関する知識を学びました。

また、参加者から、「実務に役立つ説明で分かりやすかった。資料も整理されていて分かりやすいので、実務でも参考にしようと思う」、「事務職員として身につけておかないといけない知識だと思うので、ぜひ継続して実施してほしい」などの感想が寄せられ、本講習会で学んだ知識が、法規業務の円滑な実施や適切な組織管理等に向けての意識向上につながる、充実した講習会であったことがうかがえました。



講義を行う総務部総務課法規企画掛職員



演習を行う受講者



講習会の様子

(総務部(総務課))

[目次に戻る](#)

令和元年度総長杯(ディスクドッジ大会)を開催

9月3日(火)、9月4日(水)の2日間にわたり、総合体育館メインフロアにおいて、令和元年度総長杯ディスクドッジ大会が行われ、15チームのエントリーがあり大盛況でした。各試合とも攻守せめぎ合う白熱した展開となり、大きな声援が送られていました。

決勝戦では、総務部人事課の「チームJIN」(代表者:松井淳)チームが、医学研究科、医学・病院構内共通事務部「新進気鋭」(代表者:河村知子)を下し、見事に優勝しました。試合終了後の表彰式では、宇野圭助 総務部人事課福利厚生室長が優勝、準優勝チームに賞品を授与しました。

話題

最終順位は、以下の通りです。

優勝 チームJIN (総務部人事課)

準優勝 新進気鋭 (医学研究科, 医学・病院構内共回事務部)

第3位 2度めの…? (桂地区 (工学研究科) 事務部, 工学研究科)



優勝した「チームJIN」チーム



準優勝した「新進気鋭」チーム

(総務部 (人事課))

[目次に戻る ↗](#)

体育会居合道部が ICOM 京都大会の展示会開会式で演武を披露

ICOM 京都大会の展示会開会式が9月2日 (月) に国立京都国際会館で行われ、本学体育会居合道部が演武を披露しました。

ICOM (International council of Museums : 国際博物館会議) は、ミュージアムの進歩発展を目的とした世界で唯一かつ最大の国際的非政府組織です。1946年に創設され、2019年には世界138の国と地域から44,500人のミュージアム関係者が加入しています。3年に一度大会が開催されていますが、日本では初めてとなります。

大勢の参加者が見守る中、日本の伝統である居合道を披露できたことは、大変光栄でした。



演武の様子



集合写真

(教育推進・学生支援部 (厚生課))

[目次に戻る ↗](#)

訃報

このたび、坂野 登 名誉教授、大石 純 名誉教授、寺島 泰 名誉教授が逝去されました。ここに謹んで哀悼の意を表します。以下に各氏の略歴、業績等を紹介しします。

坂野 登 名誉教授

坂野 登先生は、9月2日に逝去されました。享年85。

先生は、昭和32年3月京都大学文学部を卒業後、昭和34年3月同大学院文学研究科修士課程を修了、昭和37年3月に同博士課程を単位取得退学されました。昭和36年3月から昭和41年3月まで、株式会社日本リサーチセンター主任研究員、昭和39年2月から昭和41年3月まで、日本リサーチセンターを休職し、ドイツ民主共和国ライプツヒカルマルクス大学医学部臨床神経生理学研究室助手として勤務されました。この間、昭和38年3月に京都大学文学博士の称号を受けられました。昭和41年4月から大阪経済大学専任講師、同助教授を歴任され、昭和45年3月に京都大学教育学部に助教授として採用されました。以後、教育学部教育心理学講座において学部・大学院の学生の教育指導にあたるとともに、教育心理学、人格心理学の分野で顕著な貢献をされました。昭和59年4月に教授に昇任され、平成3年6月から平成5年5月まで京都大学評議員、平成6年4月からは教育学部教育心理学科長を歴任され、京都大学の運営に深く参画され、その充実と発展に寄与された後、平成9年3月に京都大学を停年により退職し、同年4月に京都大学名誉教授の称号を受けられました。その後、平成9年4月から平成16年3月まで神戸親和女子大学文学部教授、平成17年4月から平成24年3月まで名古屋女子大学文学部教授を務められました。

先生の研究は、ロシアの生理学者イヴァン・パヴロフの条件反射学をベースとし、誘発電位などの生理的指標や眼球運動などの身体運動反応の指標によって、思考と言語の関係、言語的思考と非言語的思考の関連性を明らかにするものでした。その後、ソビエトの心理学者アレクサンドル・ルリアの脳と心理過程に関する理論の検討を通じて、脳と心の関係、特に左右の脳の機能分化と認知様式の型との関連、および脳の働きと人格特性の関係へと研究を展開されました。さらに、高等教育改革をはじめとする教育問題に対する教育心理学の応用研究にも多くの成果を残されました。

また、先生は、日本心理学会、日本教育心理学会、日本応用心理学会、関西心理学会の運営と発展に力を尽くされ、特に、日本教育心理学会の常任理事、理事長、機関紙「教育心理学研究」編集長として斯学の発展に多大なる貢献をされました。さらに、ご自身が、英語、ドイツ語、ロシア語による論文を公刊されるだけでなく、長年、心理学の英文雑誌「Psychologia」の編集長を務められ、日本の心理学の国際化にも寄与されました。

(大学院教育学研究科)

[目次に戻る](#)



訃報

大石 純 名誉教授

大石 純先生は、8月5日に逝去されました。享年94。

先生は、昭和20年京都帝国大学工学部を卒業、京都大学大学院に進学し、昭和25年5月に京都大学工学部講師に採用され、助教授を経て、昭和34年教授に就任し、原子炉材料学講座を担当された後、昭和36年から核燃料工学講座を担当されました。この間、昭和30年3月に京都大学工学博士の学位を授与されました。昭和63年停年により退官され、京都大学名誉教授の称号を受けられました。また、昭和60年4月から停年まで京都大学環境保全センター長を併任し、大学の管理運営に貢献されました。

先生は原子力化学工学の草分け的存在であり、多くの優れた人材を育成されました。研究においては濡壁塔や同位体分離などの化学機械に関する理論と実験の両方で優れた業績を残されるとともに、金属フッ化物や乾式再処理の研究を通じて原子炉燃料再処理の分野にも多大の貢献をされました。これらの研究は約80編の学術論文にまとめられています。主な著書に『化学機械の理論と計算』があります。

また、日本学術会議原子力特別委員会委員、日本原子力学会理事を務め、本学退官後は動力炉・核燃料開発事業団や日本原子力研究所の嘱託を務めるなど、わが国における原子力の研究開発に積極的に関与されました。これら一連の教育研究活動、学界活動により、平成16年4月瑞宝中綬章を受けられ、令和元年8月正四位に叙されました。

(大学院工学研究科)

[目次に戻る](#)



訃報

寺島 泰 名誉教授

寺島 泰先生は、9月12日に逝去されました。享年82。

先生は、昭和35年京都大学工学部土木工学科を卒業、昭和37年同大学院工学研究科修士課程を修了し、昭和44年京都大学工学博士の学位を授与されました。昭和37年4月京都大学工学部助手に採用され、昭和42年講師、昭和43年に金沢大学工学部助教授、昭和49年に京都大学工学部助教授を経て、昭和51年教授に就任、衛生工学科産業衛生工学講座を担当されました。平成13年停年により退官され、京都大学名誉教授の称号を受けられました。

本学退官後は、平成13年4月から平成20年3月まで大阪産業大学人間環境学部教授を務められました。

先生は衛生工学・環境工学、中でも地圏水圏環境管理の分野に関する研究において優れた研究業績を残され、その発展に寄与されるとともに、水質変換・制御の分野においても多大の貢献をされました。主な著書に『土壌地下水汚染と対策』、『水処理管理便覧』等があります。

また、日本地下水学会、土木学会、日本水環境学会などにおいて、会長、理事、支部長等の要職を歴任されました。これら一連の教育研究活動、学界活動により、平成29年5月瑞宝中綬章を受けられました。



(大学院工学研究科)

[目次に戻る ↗](#)